

第9回沖縄県教育委員会会議（定例会）

1 日時 平成22年07月21日 15時15分～16時40分

2 場所 教育庁第一会議室

3 出席者

委員	比嘉 委員 (委員長) 鎌田 委員 安次嶺 委員 中野 委員 新垣 委員 金武 委員 (教育長)	(欠席委員)
----	--	--------

教育 庁	統括監等	教育管理統括監、教育指導統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長 財務課長 施設課長 福利課長 県立学校教育課長 義務教育課長 保健体育課長 生涯学習振興課長 文化課長 全国高校総体推進課長
	職務のため 出席した者	(事務局) 総務課総務班長、総務課総務班主査、 県立学校教育課高校教育改革班主任指導主事、 県立学校教育課高校教育改革班指導主事

4 傍聴した者

記者2人 / その他2人

平成22年第9回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:15）

委員長	ただ今から平成22年第9回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 次に、前々回会議録の承認を行います。鎌田委員お願いします。
鎌田委員	正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているとのことですので、承認してよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 次に、前回会議録の承認を行います。安次嶺委員お願いします。
安次嶺委員	正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているとのことですので、承認してよろしいでしょうか。
各委員	はい。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は中野委員にお願いします。
中野委員	はい。
委員長	次に教育長報告をお願いします。
教育長	（教育長報告 ・平成22年第2回沖縄県議会（6月定例会）における質問・答弁概要 について）
委員長	それでは、御質疑ございますか。
安次嶺委員	外国語指導助手について聞きたい。沖縄県には国の採用がいるのか。
教育長	国の採用と市町村単独の採用がおります。
安次嶺委員	国の採用はどこに配置されるのか。
県立課長	国が採用しまして、それを県が引き受けて配置します。
教育長	高等学校と教育事務所に配置しております。
安次嶺委員	国の基準はどういうものか。市町村の基準とどこが違うのか。
義務課長	国の基準の一部の情報が手元にあります。日本について関心があり、来日後も進んで日本に対する理解を深めようとする意欲があること。心身ともに健康であること。日本で職務に従事し、生活適応する能力を有すること。日本国法令を遵守すること。等16項目ございます。 市町村も資格等については基本的に国に準じており、ほぼ同様ですが、給与面等で国と市町村は違いがございます。国全体でJETプログラムという

	ものがあり、国から県が引き受ける場合には県立学校や教育事務所に派遣されます。市町村もJETプログラムを利用して採用する場合がありますし、完全に独自で採用する場合があります。
安次嶺委員	どこが採用したかによって資質に違いがあるのか。市町村は、国で落ちた人を取るのか、あるいは全然違うレベルの人を取るのか、あるいは沖縄は外国人が多いから、かえって地元で採用した方が有利なのか。
義務課長	市町村では県内在住の英語を話せる外国人の採用が主です。国のJETプログラム終了後県内に残っている方を採用する場合があります。
安次嶺委員	沖縄はアメリカ人が多くて質の高い人材が選べるということはないか。
義務課長	国は全世界から採用しますので、特にそういうことはございません。
鎌田委員	以前、外国人教師による事件があった。かなり青少年に与える影響が大きい事件ただけに、どういう採用基準で採用されているのか気になる。あれは市町村で採用された教師だったのか。
義務課長	はい。
鎌田委員	対応は市町村に任せている状況なのか。国採用であれ、市町村採用であれ、事件があったときに被害を被るという点では同じ。二度とそういう事件を起こさない人事をするためにも、どこに課題があったかを整理して、各市町村や県がしっかりとらえておかないといけないのではないか。
中野委員	事件後、二度とこのような事件を起こさぬよう、国で採用する際にいろいろ条件を作ってほしいとか、国に対して要請したのか。
教育長	<p>以前に高校と教育事務所で事件を起こした外国人教師が計3名おり、私達も非常にショックを受けていろいろ対応しましたが、選考した国も、沖縄だけの問題ではないので、非常に重要な問題ととらえて、いろいろ調査をして、研修を強化する等、厳しくしております。県でも、県で引き受けた方々が来たときに研修会をして、規律の面では、厳格にしております。</p> <p>今回は市町村採用職員で、市町村の権限で市町村が指導、監督にあたりますので、県が指示することはできません。各市町村に対しては、こういう事があったので二度とないように対応していただきたいと依頼しております。</p>
新垣委員	外国の方は、ホームシック等心身面の不調を生じることがあるので、そういったケアもしてほしい。心身の不調から薬物に手を出してしまような面もあると思う。私がPTA活動していた学校にも来ていて、私たちは英語を話せないが、PTA行事等に呼んで一緒にレクリエーションをしたりした。そういうことで、少しでも馴染んでくれると思うので、お願いしたい。
教育長	これに関しましては、各学校にALTの担当の職員を配置しております。県の方にも、悩み相談、沖縄の生活に慣れない等について、一人一人カウンセリングするALT担当を置いております。やはり、外国から一人に来て、

	不安なこと等いろいろあると思いますので、さらに充実させて、新垣委員がおっしゃった事についてもサポートしていきたいと考えています。
安次嶺委員	この外国語指導助手というのは英語だけか。他の言語もあるのか。
教育長	ALT、FLTとしては英語と中国語だけです。ALTではなく非常勤講師という形では、韓国語とかドイツ語は選択で置いております。学校によって違いますが、フランス語やスペイン語もあります。
委員長	地元県民である教職員の質の向上やモラル教育、服務規律の徹底にも皆さん苦勞されている。それが外国人教師となると、さらに大変だと思うが、大事なことなので、外国人教師の資質の向上、子供達に対する教育のあり方を見直してほしい。
中野委員	珊瑚舎スコールの実態はどの程度理解しているのか。規模、沖縄県に未修了者が何名ぐらいたか、現在どれぐらいスコールで勉強しているのか。
教育長	平成12年度の国勢調査では、義務教育未修了者が県内で9,000名います。この中には、戦前で学校に行っていない80～90歳の方も含まれております。70代以上の方は2,000～3,000名ぐらい、終戦後の未修了者は年齢から計算して1,300人ぐらいと思われます。本件について各市町村に調査したところ、2村から該当者なしの報告があっただけで、後は確認できない状況でした。
義務課長	珊瑚舎スコールで勉強されている方は、現在、29名いらっしゃるということです。その他にも、戦中戦後に該当しない方もいらっしゃいます。
中野委員	教育長答弁では、具体的支援について「財政面では現行の制度では厳しい。」としているが、なぜ厳しいのか。こういう方こそ県をあげて国をあげてやってあげる姿勢があつてよいのではないかと思う。
教育長	まず、珊瑚舎スコールが学校教育法で定める学校ではないということがあります。ですが、中野委員がおっしゃることは大事なことです。いかにしてサポートができるのか調べております。以前、福祉保健部の方で、該当する支援事業があり、100万円程度支援したことがあります。教育委員会としてもなんらかの形で支援できないかと検討をしております。
中野委員	退職教員も大勢いるので、ボランティアをとおして、学びたくても学べなかった方々を支援する姿勢を教育委員会として打ち出すべきである。
教育長	どういう形でサポートできるか、どうしたら財政的に支援できるのかということについて、義務教育課でいろいろ案をたたいているところですので、もうしばらくで報告できるのではないかと思います。
委員長	ご高齢になられている方も多い中で、苦勞してこられた、しかも意欲ある方々に対する支援として、県民として何ができるのか考えたいところだ。
中野委員	南部離島町村学生宿舎について。離島は非常に経費がかさむが、どの程度の寮費で入寮しているのか。

県立課長	現在、県立高等学校に設置されているもので、月額平均26,000円となっており、内訳は食費、維持費となっております。アパートに住んでいる場合は8万円程度かかります。
委員長	寮のある学校は何校か。
県立課長	11校ありまして、辺土名高校では寮費月額が21,000円、北山高校が22,000円、名護高校も22,000円、宜野座高校が25,000円、沖縄工業高校が30,000円、向陽高校が35,000円、開邦高校が36,600円、八重山地区の3つの宿舎は20,000円、沖縄水産高校が36,000円となっております。
委員長	入舎率はどうか。
県立課長	入舎率は73.7%です。開邦高校では55.4%です。
委員長	沖縄県の39の有人島のうち、高校がある島は、沖縄本島以外では石垣、宮古、久米島、伊良部の4島。全国では長崎県が1番有人離島が多く、沖縄県は2番目、3番目は愛媛県、4番目が鹿児島県。正確な数字は確認が必要だが、前に見たデータでは、長崎県の方が離島数は多いが、島に高校がなくて中学卒業後に親元から離れて高校進学しなければならない生徒数は沖縄県の方が多い。経済的、精神的な負担が全国の中で沖縄県は最も高いと思う。スポーツや文化活動等の旅費等、負担が大きいと思うので、寮の問題は確かに大切だと思うが、50%から70%しか入舎率がないという話もある。なぜなのか。単に学校ごとの差なのか、何か別の理由があるのか調べて、離島の子供達が高校進学するときに経済的負担を軽減できるようにしてほしい。
鎌田委員	義務教育の段階の離島で教育を受ける子供達の問題を、教育庁だけでなく、知事部局も含めて他部署と連携を取りながらもう少し力を入れて取り組んでいく課題だと思う。
委員長	先日、島尻教育事務所管内の市町村の教育委員との意見交換会をした際に、離島苦の声が上がった。離島県の悩みをそれぞれの現場から聞くことの大切さを感じた。今後事務局とも共有できたらと思う。各委員も感想があると思うので、後で伝えてもらいたい。
安次嶺委員	美ら島総体について。県外から36,000人が来県する予定だが、宿舎があるか心配だ。民宿なども使うのか。
保体課長	宿泊施設に関しては、県内業者7社ほどのJVでホテルを確保しております。選手に関しては民泊はありません。できるだけいいホテルで過ごせるようにしております。食中毒等も起こらないような指導も十分やりながらきちんとしたホテルで宿をとるということで進めています。弁当に関しても保冷車を使うような形で計画中です。
安次嶺委員	高校総体関連で、麻疹について。教育長がしっかり各学校現場に麻疹の予防接種受けるように呼びかけたおかげで、かなり予防接種は進んだ。しかし

	まだ完璧ではないので、どこかで発生する可能性もあり、全国の生徒達にばらまきおそれもある。万一、発生したらすぐに医療機関と連絡を取って隔離しないと、競技中止ということもありうるので、注意しなければいけない。
新垣委員	美ら島総体の選手を応援するストラップのお土産作り等が新聞で紹介されていたが、他にも、各市町村や練習会場の学校のPTA、婦人会や地域の自治会等、至る所で盛り上げようとしている。選手でない子供達や練習に来る子供達を迎えるいろんな取組、教職員の半数が美ら島総体に関わる事等、沖縄でいい思い出を作ってもらいたいという取組を広く知ってもらいたい。
委員長	競技場になっている市町村が各県からの参加者をもてなすための取組、例えば、PTAや子供達にお土産を贈ったり等のいろんな取組がまとめられた資料はあるか。
教育長	小学校、中学校、高校の取組を全てまとめ、マスコミに提供しております。小学校では各選手の名前を書いたり、各県の旗を作って応援に行ったり、市町村ではPTAの方々がそば等食べ物をいろいろ準備したりしています。後は、各地域の方々にセレモニーで踊りを披露してもらったりしていますので、地域でどういう取組があるか集約する必要があると思います。
委員長	教育委員としても、全県をあげたもてなしとして心を一つに頑張っていきたいと思うので、教育委員にも取組の資料を提供してほしい。 来週いよいよ本番。成功を祈ってみんなで一致団結して取り組んでいきましょう。頑張りましょう。
委員長	それでは、議事に入ります。本日は議案が1件となっております。それでは、議案第1号の説明をお願いします。
県立課長	(議案説明 ・平成23年度沖縄県立高等学校入学定員について)
委員長	それでは、御質疑ございますか。
安次嶺委員	出生率は年々確実に減っている。例えば地域によって那覇は増えているが、どこかは減るということならばわかる。しかし、県全体で年によって増えたり減ったりしている。例えば、来年度は430人増え、次の年また減る。漸減の中にさらにこういう増減があるのは何らかの社会的要因があるのか。高等学校の定員は中学生数から予測しているのか。
県立課長	学校基本調査から予測しています。
安次嶺委員	全体の漸減はわかるが、その中での増減の分析もしながら将来の予測も立てた方がよいのではないかと。県外からの移住者という要因もありうるのではないかと。宮古地区はあまりグラフ上でジグザグがない。島の中である程度完結しているのではないかと。那覇等に集中するならばわかるが、なにかソーシ

	<p>ヤルな要因があるのではないかと思う。この辺も今後視野に入れてやってほしい。</p>
新垣委員	<p>沖縄は結構人気があって、本部高校にもゴルフで本土から来ている。何校かに本土から来ていると思うが、50人ぐらいか。</p>
県立課長	<p>県外から申込があった生徒は59名です。</p>
教育長	<p>県外から申し込むときは、県教育委員会の了解を得て受験しますので把握できますが、そのうち合格した生徒数は把握しておりません。</p> <p>久高に来て県外に戻らずに残っている生徒もいます。また、八重山農林高校で牛の勉強をしたいと茨城から来て宇都宮大学に合格した子、辺土名高校で今回ボートの選手になる子等、県外から目的を持って来る子がいます。</p>
鎌田委員	<p>豊見城南高校が普通科を7クラスを6クラスに減らす。その1クラス減は特進スポーツクラスがなくなるのか。</p>
県立課長	<p>基本的にはそう考えておりますが、学校で引き取って議論してもらいたいと考えております。</p>
鎌田委員	<p>特進がなくなるかどうかはまだということか。しかし、今年度9人しか来ていないというのは課題があると思う。特進スポーツ科新設当初は多かったのか、それとも当初から定員ぎりぎり、あるいは減少が続いていたのか。</p>
県立課長	<p>最初の頃はかなり多かったですが、途中から減少してきております。</p>
鎌田委員	<p>特進スポーツクラスを設置したにもかかわらず、9人しかいない。こちらとしてはとにかく7クラスを6クラスにして、その方法は学校に任せるとする理由はなにか。少ない原因を考えて、建て直すのかあるいはなくすのかという、その方向性はこちらは出せないのか。</p>
県立課長	<p>出せます。こちらでは特進スポーツ廃止がベターではないかと思っており、本日の決議を経て学校と協議して提案しますが、教育課程や学校の体制整備は第1に校長に権限があり、校長が過去の状況を見ながら判断する形になります。指導という形で特進スポーツ廃止をすすめることもできます。</p> <p>9名の特進スポーツを残して、他の6クラスから1クラス減らすことは考えにくいですが、どうしても特進スポーツを残したい場合、コースを少し変え、例えば、1学科を2コースに分けたり等で残せるのかどうか、そのあたりを議論してもらいたいと思います。</p>
鎌田委員	<p>9名になった原因はなにか。</p>
県立課長	<p>南部地区にはスポーツ科を置く学校が南風原高校、那覇西高校もありますが、スポーツ系を目指す生徒は那覇西高校、南風原高校を選ぶ傾向があり、その後に豊見城南高校という状況にあります。私も豊見城南高校の校長経験があり、在職中にいろんな改革を試みましたが、施設設備や教員の問題ではなく、地域住民や高校生の意識の問題で、流れを変えるのは困難でした。</p>

委員長	<p>他に御質疑ございませんか。</p> <p>(しばし間があり)</p> <p>では、このとおりに決定してよろしいでしょうか。</p>
各委員	はい。
委員長	<p>このとおりに決定します。</p> <p>空き定員がこれだけあり、予算的にも教員配置的にも難しい状況で平準化せざるをえないのは理解できる。子供達の意向がなかなか計りきれず、枠の設定は大変だと思うが、この学校、学科に行きたい、というのは大事なモチベーションだ。そのもととなる個々の学校の魅力を作るためにみんなで取り組んでいかなければいけないと思う。学校の個性作りに取り組み、それにあった教職員を配置する。この学校にはこんなコースがあってこういう先生が集まったからここで頑張りたいというようにして、子供達が行きたくなるような学校作りをすることで、子供達が夢を持って進学するように取り組んでいってほしい。</p> <p>さて、閉会前に、先ほど話題になった離島の教育について、島尻地区市町村教育委員との意見交換の感想や重要と思ったこと等、各委員からお願いします。</p>
安次嶺委員	<p>離島県であることが、政治、経済、教育、文化、医療、すべてで問題になる。各分野そうだが、やはり教育は大事だ。今の世の中、経済の発展ばかり言われるが、沖縄の将来を考えれば人材が必要だ。沖縄は産業も資源もあまりない。人こそ資源という視点で、教育をしっかりとやらなければいけないと思う。渡名喜や粟国等の小さい島の教育委員の方々が非常に悩んでいらっしゃると思ったが、それぞれの離島の独自性を尊重して、現場の意見を聞く、我々も教育庁、県庁のこの13階から離島を眺めるだけではなく、同じ目線で考えなければいけないと改めて感じ、反省を込めて教育の大事さを思った。</p>
鎌田委員	<p>島尻地区の市町村教育委員会の方々との意見交換ではとても胸を痛めた。県が提案した議題が「点検・評価」だったが、小さな島では、それ以前の問題として、人がいないために教育委員会組織そのものが成立できないとのことだった。そのことを知り、何処でどう声を出して、どう目を向けたらいいのかと感じた。やはり直接出向いて市町村の生の声を聞くことは私達の働きとしてとても大事だと思った。そこから出てきた声は、課題を整理して事務局に提案しながら、厳しい状況の解決に向けて具体的に取り組んでいかなければいけないと感じた。厳しい状況の中で頑張っている実態があることを知り、課題を投げつけられたと受けとめている。</p>

中野委員	<p>小さな離島から指導主事の派遣を希望する声が強かった。金も人も少なく、制度も十分に活かされていない中、指導主事を派遣できれば、それなりに教育委員会を活性化できるのではないかと。十数年前は派遣指導主事が結構いた。しかし、今は財政が厳しく全部消えたのか。行革ばかり強く押し進めてきて、むしろ離島の苦労苦悩を大きくしているように感じる。かつて良かったものは復活させてもらいたい。生涯学習振興課にも社会教育主事がいたが、それが復活したらいいのではないかと希望する。</p>
新垣委員	<p>ある教育長が小学校1年生を複式学級にしたいと話していた。学校デビューの場で複式だけは本当にさせたくないという思いがじんときた。複式授業は小学校にも中学校にもある。実際に見てきて、どういうものかと判断できることもある。10名とか5名の少人数でいる子供達はすごく心が素直で暖かい。1回は皆さんと行ってそういう子達に触れてみたいと思った。離島でなくても、陸続きの僻地には複式学級があると思うので、頭で考えるとか報告だけでなく、直に現場へも足を運んで見てきてほしいと感じた。</p>
委員長	<p>島尻地区には人口400人から800人ぐらいの小規模離島が4島、粟国、渡名喜、座間味、渡嘉敷がある。県教育庁では何百人もの職員で各事業に取り組んでいるが、小規模離島は職員が4、5人しかおらず、様々な事業の取組や検証ができない状況にある、点検・評価もどうすればいいか悩んでいた。意見交換後の感想では、いろんな意見が出たことで、「目から鱗だった」「疑問が解けた」「よその意見が参考になった」等、喜びの声が上がった。教育委員が意見交換で聞いてきた声をこうして共有することで、改善の取組に反映されていけばいいと思う。一緒に頑張っていきましょう。</p> <p>それではこれで閉会とします。お疲れ様でした。</p>